

家に行きました。團長はフランツをピアノの前に坐らせて  
いろいろな曲を弾かれました。そして一つの曲がおしまひに  
なる度に、小さい溜息をつきました。やがて團長は、フラ  
ンツのお父さんに

『フランツさんは、あとできつミ世界一の音楽家になりま  
す。さうでせう、私の家にフランツさんをお預りして、

音楽學校に通はせては？』

と云ひました。お父さんは驚いたやうな、嬉しいやうな顔  
をして、暫らく黙つてゐましたが、やがて、

『あなたさへおよろしければ、私には異存はございませ  
ん。』

と答えました。

みなさん、これが世界で名高い、オーストリアの音楽家  
フランツ・シューベルトの子供の時のお話です。

## 象の涙

—上野動物園にて— 蚊 痛 二

象が嘆いていふことにや

花咲く園とあこがれて

來たのを乃公はうらみませ

今ちや尼枷三十年

とこに咲きます心の花。

象が嘆いていふことにや

情の果のなる國さき

慕ひ來たのがあたとなり

黒痴の泪に故郷の

舊友の片影がうつります。

象が嘆いていふことにや

はやをいぼれたこの老齡ぢや

暴れも逃げもなりません

歩んでみたい二歩三歩

けふもなみだの目がくれる。